

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米 国

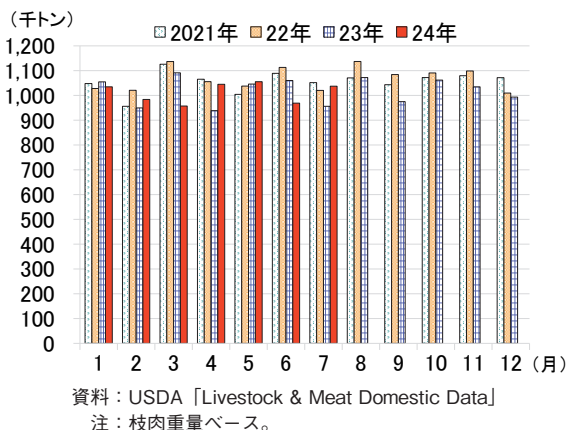
肥育牛価格は高値で推移、フィードロット飼養頭数は前年並み

24年7月の牛と畜頭数、前年同月比
4.8%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年7月の牛と畜頭数は、前年に比べて操業日数が多かったことなどにより272万2000頭（前年同月比4.8%増）とやや増加した。また、1頭当たりの平均枝肉重量が、382.8キログラム（同3.6%増）となったため、7月の牛肉生産量は103万7000トン（同8.5%増）とかなりの程度増加した（図1）。なお、1～7月の牛肉生産量は708万2000トン（前年同期比0.2%減）となっている。

（注1）USDA/NASSが半年に一度公表する「Cattle」は米国政府の予算不足により、7月1日の飼養頭数のデータは集計・公表されなかった。

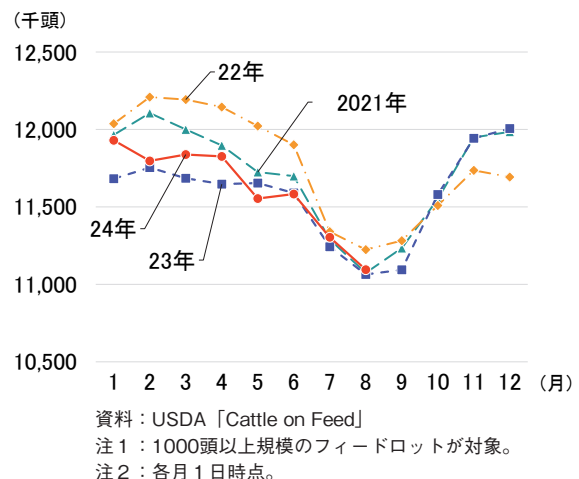
図1 牛肉生産量の推移



24年7月の肥育牛価格は前年同月比
7.1%高

USDA/NASSによると、2024年7月のフィードロット導入頭数は170万頭（前年同月比5.8%増）とやや増加し、出荷頭数は185万5000頭（同7.7%増）とかなりの程度増加した。この結果、本年8月1日時点のフィードロット飼養頭数は1109万5000頭（前年同日比0.3%増）と前年同日並みとなった（図2）。国内のもと牛生産のひっ迫を、引き続き海外からの生体牛の輸入で補っており、同年1～6月のフィードロットへ導入される肥育もと牛の輸入頭数は、81万5000頭（前年同期比18.6%増）と大幅に増加した。USDAは、輸入生体牛が増加している一方で、フィードロットのもと牛として未經産

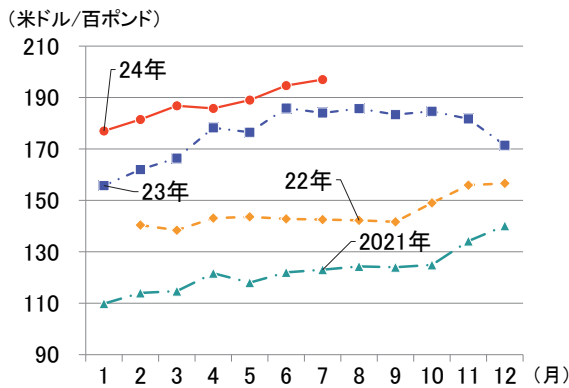
図2 フィードロット飼養頭数の推移



牛が前年並みに飼養されているため、牛群の再構築はさらに遅れる可能性があるとしている。

また、米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年7月の肥育牛価格は100ポンド当たり196.99米ドル（1キログラム当たり633円：1米ドル＝145.80円^{（注2）}、前年同月比7.1%高）とかなりの程度上回った（図3）。USDAは、今後の100ポンド当たりの肥育牛価格について上方修正したものの、第3四半期（7～9月）は193米ドル（同620円）、第4四半期（10～12月）は190米ドル（同610円）と弱含みで推移すると予測している。

図3 肥育牛価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注2：2022年1月の値は、N/A値。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

24年6月の牛肉輸出量、前年同月比2.4%減

USDA/ERSによると、2024年6月の牛肉輸出量は11万9524トン（前年同月比2.4%減）とわずかに減少し、1～6月の累計では68万7085トン（前年同期比4.5%減）とやや減少した（表）。

6月の牛肉輸出量を輸出先別に見ると、日本向けは円安ドル高の中でもインバウンドなどの堅調な外食需要から2万6457トン（前年同月比7.6%増）とかなりの程度増加した。一方、韓国向けは2万3549トン（同10.1%減）、中国向けは1万6372トン（同24.9%減）とそれぞれ減少した。

24年の牛肉輸出量についてUSDAは、日本やメキシコなどの主要市場の需要が堅調であることを踏まえ、前月予測から1万5000トン引き上げ、133万4000トン（前年比3.2%減）と見込んでいる。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	24,597	26,457	7.6%	22.1%	152,269	▲1.8%
韓国	26,198	23,549	▲10.1%	19.7%	143,438	▲13.4%
中国	21,811	16,372	▲24.9%	13.7%	107,741	▲11.4%
カナダ	11,692	14,032	20.0%	11.7%	59,624	▲2.1%
メキシコ	11,378	11,910	4.7%	10.0%	77,089	14.7%
台湾	10,186	10,298	1.1%	8.6%	43,277	▲8.3%
香港	3,831	2,858	▲25.4%	2.4%	17,728	▲8.6%
その他	12,723	14,047	10.4%	11.8%	85,920	4.5%
合計	122,417	119,524	▲2.4%	100.0%	687,085	▲4.5%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 中島 勝紘）

豪州

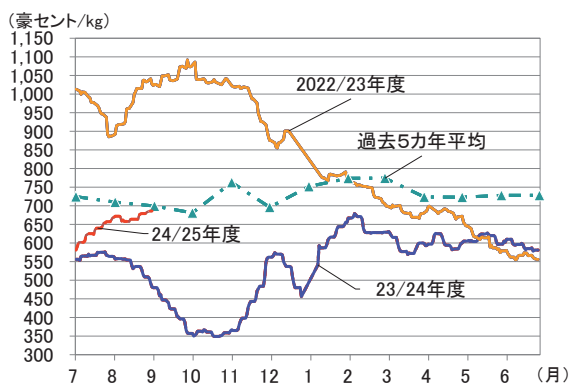
24年8月の牛肉輸出量、生産増と海外需要増を背景に過去最高を記録

24年8月の肉牛価格、過去5カ年平均と同水準まで上昇

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、豪州の肉牛生体取引価格指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2024年8月に入り、これまでの上昇傾向からいったん下落したが、その後は再び上昇に転じ、8月30日時点で1キログラム当たり686豪セント（689円：1豪ドル＝100.44円^{（注1）}）と過去5カ年平均と同水準となった（図1）。豪州気象局（BOM）の見通しでは、主要肉用牛生産地域であるクィーンズランド州やニューサウスウェールズ州で平年以上の降雨が見込まれていることから、牧草の育成を見込んだ牧草肥育農家からの需要増により、今後同価格はさらなる上昇が見込まれる状況にある（図2）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

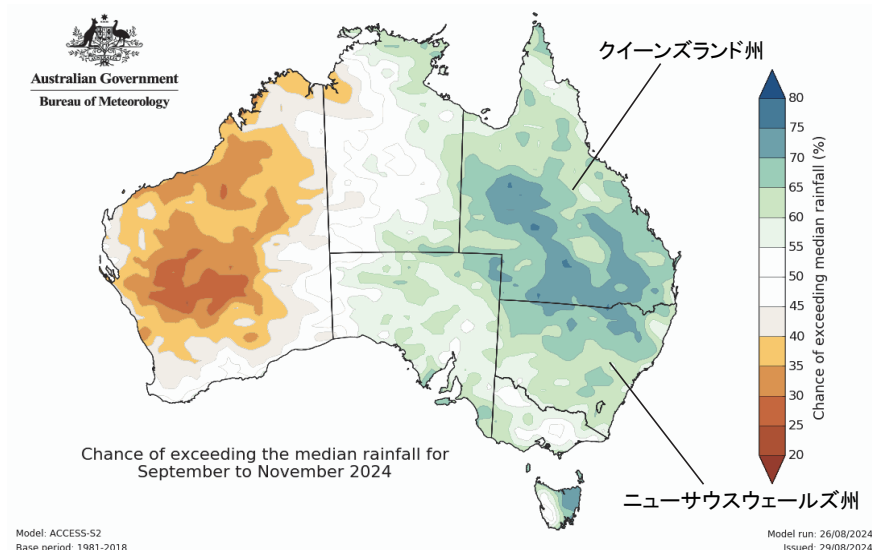
注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

他方で牧草の生育状況に左右されない穀物肥育牛肉の需要が高まりを見せており、24年6月末のフィードロット飼養頭数および収容能力は、過去最大となっている^{（注2）}。

（注2）海外情報「肥育牛需要の拡大でフィードロット飼養頭数、収容能力ともに過去最大（豪州）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003915.html)をご参照ください。

図2 24年9～11月の豪州における降雨予想図

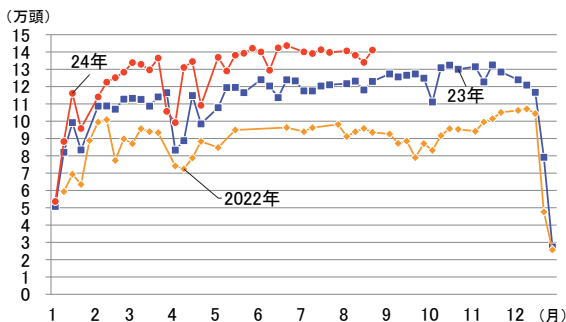


資料：BOMウェブサイトから引用

24年8月の週間成牛と畜頭数、高位安定で推移

MLAによると、2024年8月の週間成牛と畜頭数は、同月第4週時点で14万1110頭と安定して推移している（図3）。同週では、クィーンズランド州以外の州で軒並み減少したものの、クィーンズランド州では過去4年間で最大となる7万4974頭（全体の53.1%）がと畜され、前週から9110頭増加したことで他州の減少分を相殺し、14万頭規模のと畜頭数を維持している。

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

24年7月の牛肉輸出量、過去最高を記録

豪州農林水産省（DAFF）によると、2024年7月の牛肉輸出量は12万9998トン（前年同月比33.6%増）と大幅に増加し、15年3月の12万3464トンを超えて、月次の牛肉輸出量データが存在する1994年以來の過去最高を記録した（表）。

現地報道によると、この記録は、安定したと畜頭数と枝肉重量の増加と海外からの需要増が主な要因であるが、ハンバーガー用パテに用いられるひき肉用が主体の米国向けの増加が大きく影響しており、同月の同国向けは3万8540トン（同61.2%増）と大幅に増加している。また米国の牛肉供給量減少に伴う日本や韓国からの豪州産牛肉への代替需要の高まりも、反映されている。

一方で、主要輸出先のうち中国向けは、1万6249トン（同3.3%減）とやや減少しているが、減少幅は前月（同32.6%減）

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～7月)	
				前年同期比 (増減率)	
米国	23,909	38,540	61.2%	193,970	71.7%
日本	17,732	26,297	48.3%	160,207	33.3%
韓国	16,960	20,331	19.9%	109,796	5.5%
中国	16,807	16,249	▲ 3.3%	106,043	▲ 8.4%
東南アジア	11,057	13,399	21.2%	76,709	21.4%
中東	2,154	3,475	61.4%	21,368	44.7%
EU	756	1,168	54.4%	7,853	71.3%
その他	7,931	10,539	32.9%	55,462	38.2%
輸出量合計	97,305	129,998	33.6%	731,407	27.0%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

に比べて小さくなっている。現地報道によると、同国内の牛肉需要は低迷しているものの、米国大統領選におけるトランプ氏再選の可能性があることから、その前に貿易の不確実性

に対する措置として、中国政府が輸入牛肉を備蓄していることを示唆している。

(調査情報部 国際調査グループ)

ブラジル

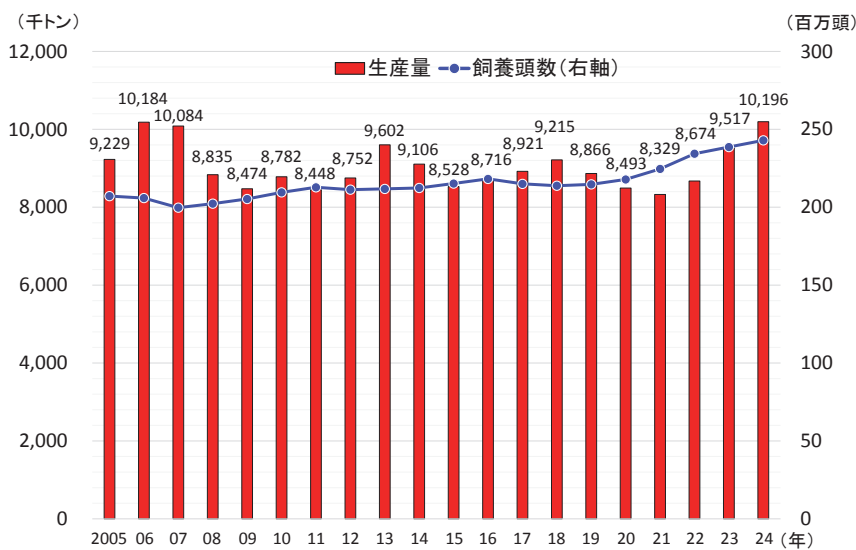
24年の牛肉生産量は3年連続の増加で過去最大の見込み

24年の牛肉生産量は17年ぶりに1000万トンを超える見込み

ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB) によると、2024年のブラジルの牛肉生産量は1019万6000トン (前年比7.1%増) とかなりの程度増加し、3年連続の増加が見込まれて

いる (図1)。牛肉生産量が1000万トンを超えるのは07年以来の17年ぶりとなり、これまで最大であった06年 (1018万4000トン) の記録を上回るものとなる。また、同年の牛飼養頭数は2億4293万頭 (前年比1.8%増) とわずかに増加し、6年連続の増加とされている。

図1 牛肉生産量および牛飼養頭数



資料: CONAB (2024年7月25日公表)

注: 牛肉生産量は枝肉重量ベース。2024年は見込み値。

24年1～7月の牛肉輸出量は前年同期比31.9%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局 (SECEX) によると、2024年1～7月の牛肉輸出量は、137万6236トン (前年同期比31.9%増) と大幅に増加した (表)。これは、

生産コストの低下や米ドルに対するレアル安により同国産牛肉の国際競争力が高まったことなどが要因とみられる。特に24年7月は23万7267トンと、単月としては記録的な牛肉輸出量となった (図2)。一方、1～7月の牛肉輸出単価は1トン当たり4495米ドル (65万5371円: 1米ドル = 145.80円 (注)、

同8.2%安)とかなりの程度低下した。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは68万6031トン(同13.4%増)とかなり大きく増加した。前年の23年2月にブラジル北部パラ州で非定型BSEに感染した牛が確認され、同国向け輸出が1カ月間(2月23日~3月22日)停止したことが、24年の輸出量の前年同期比増につながっている。ただし、輸出量全体に占める中国向け輸出量の割合は49.8%であり、前年同期(58.0%)

から8.2ポイント低下した。また、アラブ首長国連邦(UAE)向けは10万3791トン(同3.2倍)と大幅に増加した。これは、同国での外食産業の成長や消費者の嗜好^{しこう}の変化によりブラジル産牛肉への需要が高まったことによる。この結果、UAE向けは中国に次ぐ輸出先(前年同期は第5位)に成長した。このほか、米国、フィリピン、ロシア向けなどが大幅に増加している。

表 牛肉輸出の推移

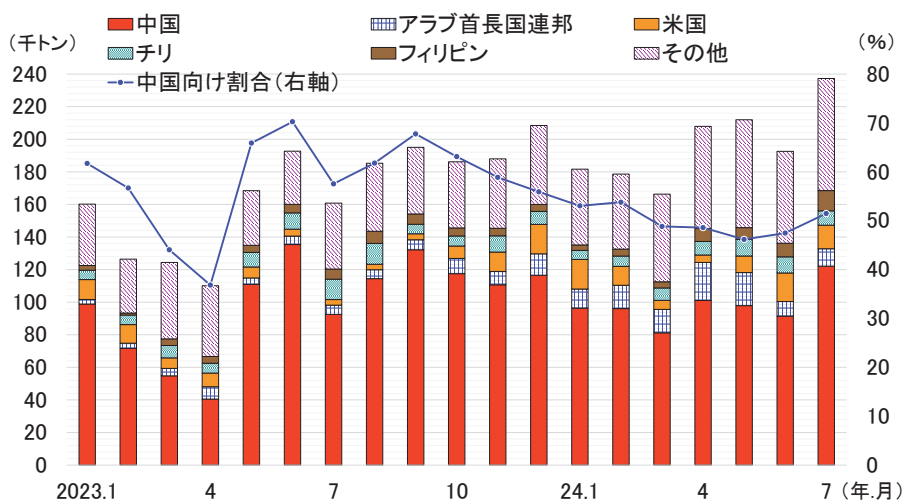
区分	2023年1~7月			24年1~7月			前年同期比(増減率)		
	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	604,704	3,047,018	5,039	686,031	3,046,193	4,440	13.4%	▲0.0%	▲11.9%
アラブ首長国連邦	32,784	149,410	4,557	103,791	479,479	4,620	216.6%(3.2倍)	220.9%(3.2倍)	1.4%
米国	52,963	239,185	4,516	82,019	395,027	4,816	54.9%	65.2%	6.6%
チリ	56,594	278,559	4,922	56,751	268,870	4,738	0.3%	▲3.5%	▲3.7%
フィリピン	28,266	109,661	3,880	47,209	168,812	3,576	67.0%	53.9%	▲7.8%
エジプト	36,717	145,335	3,958	40,046	160,714	4,013	9.1%	10.6%	1.4%
ロシア	27,588	105,245	3,815	37,363	140,205	3,753	35.4%	33.2%	▲1.6%
サウジアラビア	27,550	126,169	4,580	33,391	159,330	4,772	21.2%	26.3%	4.2%
その他	175,834	907,333	5,160	289,635	1,367,311	4,721	64.7%	50.7%	▲8.5%
合計	1,043,000	5,107,917	4,897	1,376,236	6,185,941	4,495	31.9%	21.1%	▲8.2%

資料: SECEX

注1: HSコード0201(冷蔵牛肉)、0202(冷凍牛肉)の合計。

注2: 輸出量は製品重量ベース。

図2 牛肉輸出量および中国向け輸出割合



資料: SECEX

注1: 中国向け輸出量および割合はいずれも香港を含まない。

注2: 輸出量は製品重量ベース。

24年肥育牛価格は6月以降、緩やかな上昇に転じて推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所 (CEPEA) によると、2024年8月23日時点の肥育牛価格は1キログラム当たり15.85リアル (409円：1リアル=25.78円^(注)、前年同日比15.8%高) となった (図3)。24年の肥育牛価格は、牛肉供給量が高水準で推移したことなどから23年に続き下落傾向で推移したが、同年6月7日の同14.35リアル (370円) を底に緩やかな上昇傾向に転じている。これは、輸出向けが引き続き堅調であることに加え、生産量の3分の2が仕向けられる国内市場向けについて、可処分所得の増加や牛肉供給増に伴う牛肉小売価格の

引き下げなどから需要が増加したためとみられる。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2024年8月末TTS相場および現地参考為替相場 (Selling)。

図3 肥育牛価格の推移



(調査情報部 井田 俊二)

豚肉

米 国

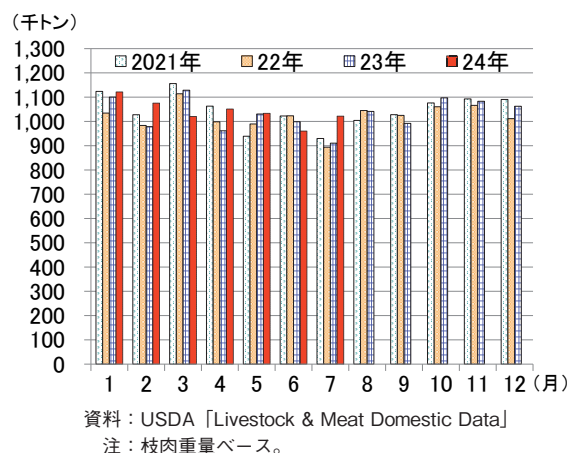
24年6月の輸出量、米ドル高の影響により前年同月比10.2%減

24年7月の豚肉生産量は前年同月比12.2%増

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) によると、24年7月の豚肉生産量は102万1900トン (前年同月比12.2%増) とかなり大きく増加した (図1)。同月のと畜頭数は、稼働日が前年同月より2日多かったことなどから1068万400頭 (同11.1%増) となった。24年の豚肉生産量についてUSDAは、飼料価格の下落に伴う枝肉重量の増加から1272万2400トン (前年比2.7%増) と予測している。なお、24年1~7月

の累計では728万4900トン (前年同期比2.5%増) となっている。

図1 豚肉生産量の推移



24年7月の豚肉卸売価格、前年同月比10.9%安

USDA/NASSによると、2024年7月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^(注1)）は100ポンド当たり99.98米ドル（1キログラム当たり321円:1米ドル=145.80円^(注2)、前年同月比10.9%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。生産量が増加基調にある中、需要が強くないことからバラ肉を中心に価格は停滞し、前月比では1.1%高となったが、例年はバーベキュー需要などから見られる価格の上昇がなかった。また、同月の肥育豚価格は、同64.95米ドル（同209円、同12.1%安）と前年同月をかなり大きく下回り、前月比では1.0%安とわずかに下落した（図3）。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

図2 豚肉卸売価格の推移

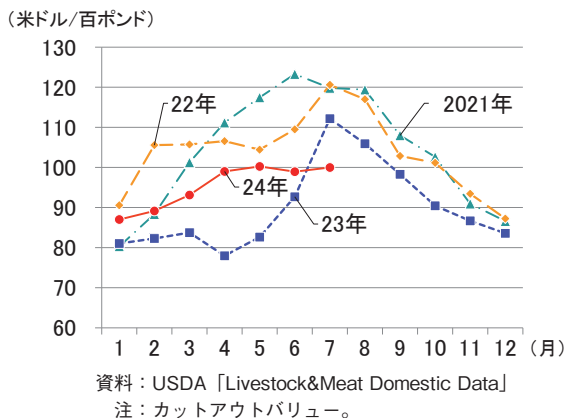
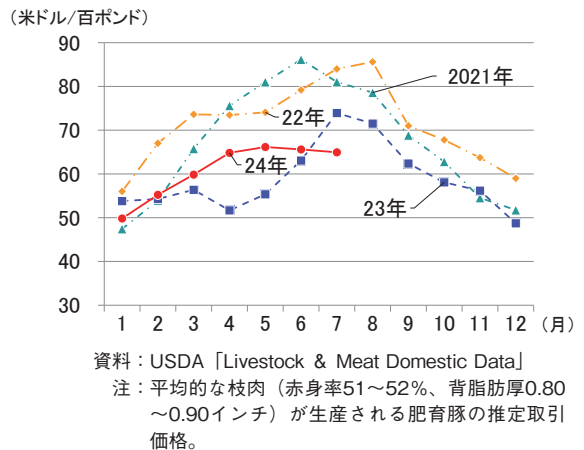


図3 肥育豚価格の推移



24年6月の豚肉輸出量、前年同月比10.2%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年6月の豚肉輸出量は米ドル高に伴う他国産との競合から23万7700トン（前年同月比10.2%減）とかなりの程度減少したものの、同年1～6月の累計では161万8000トン（前年同期比3.2%増）とやや増加した（表）。

6月の輸出量を地域別に見ると、最大の輸出先であるメキシコ向けは8万5200トン（前年同月比4.6%減）とやや減少、日本向けは4万200トン（同14.3%減）とかなり大きく減少、中国・香港向けは同国内豚肉需給の緩和から1万4900トン（同39.2%減）と大幅に減少した。一方、韓国向けは堅調な需要から2万4400トン（同19.1%増）と大幅に増加し、豪州向けは8000トン（同10.0%増）とかなりの程度増加した。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	89.3	85.2	▲4.6%	35.8%	587.8	3.9%
日本	46.9	40.2	▲14.3%	16.9%	258.0	▲3.0%
韓国	20.5	24.4	▲19.1%	10.3%	189.3	32.3%
カナダ	19.5	19.3	▲1.0%	8.1%	115.6	▲3.2%
中国・香港	24.6	14.9	▲39.2%	6.3%	92.5	▲35.9%
コロンビア	11.4	10.2	▲10.3%	4.3%	74.7	39.4%
ドミニカ共和国	10.3	8.9	▲13.2%	3.8%	64.0	44.8%
豪州	7.3	8.0	10.0%	3.4%	63.9	▲10.0%
その他	35.0	26.4	▲24.6%	11.1%	172.2	7.6%
合計	264.8	237.7	▲10.2%	100.0%	1,618.0	3.2%

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

E U

24年1～5月の豚肉生産量はやや増加、豚肉卸売価格は下落

24年5月の豚肉生産量、前年同月並み

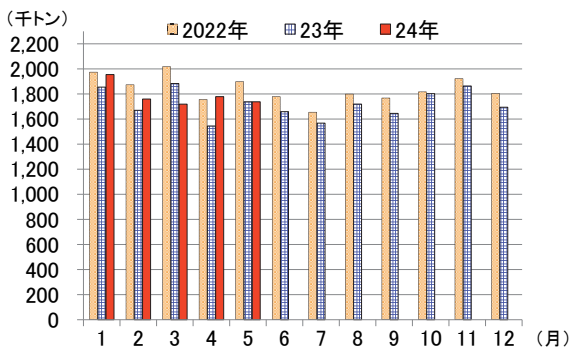
欧州委員会によると、2024年5月の豚肉生産量(EU27カ国)は、173万7420トン(前年同月比0.0%減)と前年同月並みとなった(図1)。同月の1頭当たり枝肉重量は95.40キログラム(同0.9%増)とわずかに増加したものの、と畜頭数が1821万頭(同0.9%減)

とわずかに減少したことが影響した。24年1～5月の豚肉生産量は、894万9270トン(前年同期比3.0%増)とやや増加した。

同期間の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、過去2年は生産コストの高騰、アニマルウェルフェアや環境規制に関する厳しい規制、輸出需要の減退などにより、主要生産国で生産減となったが、収益性の改善が見られたことなどから、すべての主要生産国で前年同期比増となった(表1)。デンマーク(同4.4%増)では、子豚価格の高騰により子豚生産の収益性が改善されたことから、母豚と子豚が増加し、24年7月1日時点の豚飼養頭数は前年同日比2.3%増となった。

米国農務省海外農業局(USDA/FAS)の分析によると、繁殖経営の収益性改善に伴う母豚頭数の増加により24年のEUの豚出荷頭数は、前年同月比2.1%増と予測されている。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：千トン)

	2023年 5月	24年 5月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～5月)	
					前年同期比 (増減率)
スペイン	425	407	▲ 4.3%	2,129	1.4%
ドイツ	349	343	▲ 1.7%	1,770	2.0%
フランス	172	172	0.2%	884	2.5%
ポーランド	149	151	1.2%	789	8.9%
オランダ	118	122	3.2%	637	2.8%
デンマーク	98	110	11.9%	580	4.4%
イタリア	106	105	▲ 0.2%	532	2.5%
その他	321	327	2.0%	1,630	3.5%
合計	1,738	1,737	▲ 0.0%	8,949	3.0%

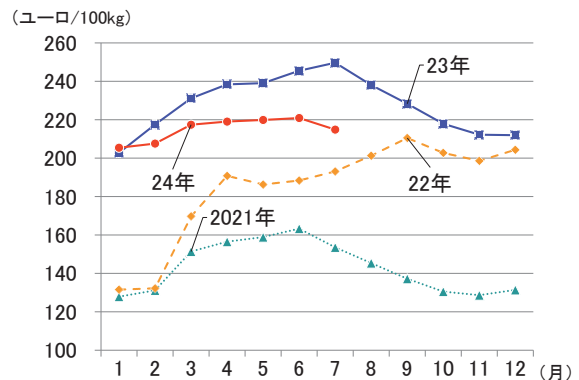
資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

24年7月の豚枝肉卸売価格、前年同月比13.9%安

欧州委員会によると、2024年7月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比13.9%安の100キログラム当たり214.85ユーロ（3万4793円：1ユーロ＝161.94円^(注1)）となった（図2）。豚肉生産量の減少により記録的な高値となった23年と比較して生産量が回復傾向にあることに加えて、天候不順などによるバーベキュー需要の伸び悩みにより前年をかなり大きく下回った。週別の価格動向を見ると、24年8月も弱含みで推移しており、直近8月19日の週は前週から0.68ユーロ（110円）安の同206.17ユーロ（3万3387円）と前年同週比11.4%安となった。現地報道によると、豚肉生産量が前年をわずかに上回っていることなどから、24年下半年も豚肉価格は引き続き横ばいかわずかな下落と予測されている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

24年上半期の豚肉輸出量、前年同期比8.8%減

欧州委員会によると、2024年上半期（1～6月）のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、101万0404トン（前年同期比8.8%減）とかなりの程度減少した（表2）。現地報道によると、最大の輸出先である中国向けは、EU産豚肉のアンチダンピング調査^(注2)への警戒感や中国がロシア産豚肉の輸入を開始したことにより、下半期も輸出に影響が出る可能性があるとしてされている。

(注2) 海外情報「EU産豚肉に対する中国のアンチダンピング調査が開始（EU）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003848.html) をご参照ください。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～6月)	
					前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
中国	42,799	39,800	▲ 7.0%	25.1%	233,343	▲ 27.8%
英国	31,488	27,376	▲ 13.1%	17.3%	165,274	▲ 1.6%
日本	21,289	25,245	18.6%	15.9%	159,318	▲ 4.4%
韓国	14,890	14,961	0.5%	9.4%	117,014	17.5%
フィリピン	9,831	9,505	▲ 3.3%	6.0%	59,044	7.4%
米国	2,414	5,482	127.1% (約2.3倍)	3.5%	34,810	83.7%
その他	43,521	36,308	▲ 16.6%	22.9%	241,601	▲ 12.6%
合計	166,232	158,677	▲ 4.5%	100.0%	1,010,404	▲ 8.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

中国

24年7月の豚肉価格は前年同月比24.4%高

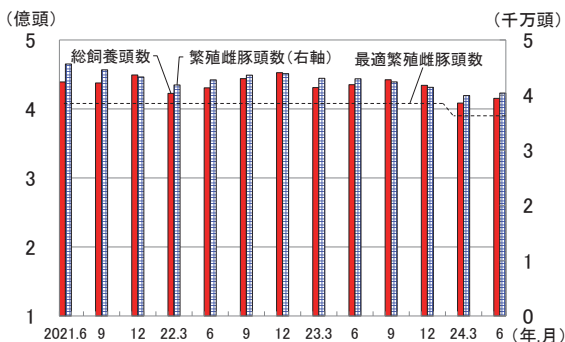
24年6月末の繁殖雌豚頭数は前年同月比6.0%減

中国農業農村部によると、2024年6月末時点の繁殖雌豚頭数は4038万頭（前年同月比6.0%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図1）。同頭数は、同部が最適な水準としている3900万頭を約3.5%上回っている。

24年6月の豚と畜頭数は前年同月比8.2%減

2024年6月の豚と畜頭数は、2431万頭（前年同月比8.2%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。現地報道によると、繁殖母豚飼養頭数の減少により肥育豚飼養頭数が減少し、と畜頭数の減少につながるとされている。

図1 豚飼養頭数の推移

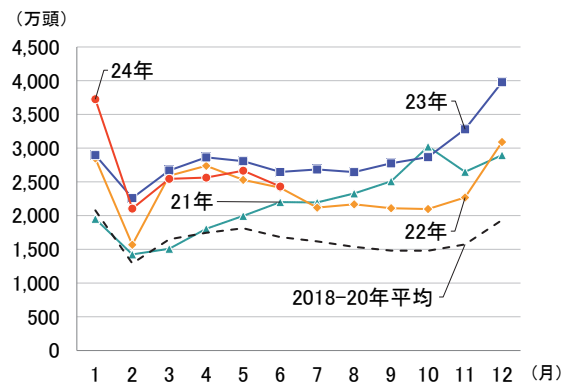


資料：中国国家统计局

注1：2024年4月のデータを除き四半期ごとの公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

図2 豚と畜頭数の推移

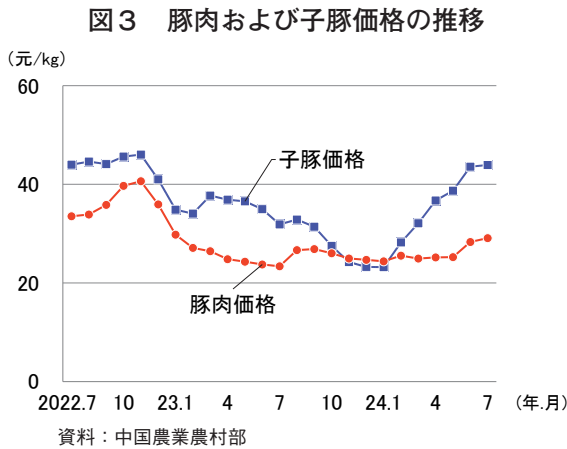


資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

24年7月の豚肉価格は前年同月比24.4%高

2024年7月の豚肉価格は、前月比2.8%高の1キログラム当たり29.1元（602円：1元＝20.70円^{（注）}、前年同月比24.4%高）となった（図3）。現地報道によると、7月はと畜頭数の減少による供給減などが価格上昇の要因とされている。今後の見通しとして、1頭当たりの枝肉重量は増加傾向にあるものの、8月、9月も引き続きと畜頭数の大幅な増加が見込まれない中で、9月ごろから気温が徐々に下がり豚肉需要の最盛期に入るため、需給のひっ迫により豚肉価格は堅調に推移すると見込まれている。



豚肉生産にも影響する子豚価格を見ると、24年7月は前月比0.8%高の同43.9元（909円、前年同月比37.8%高）と高値で推移した。現地報道によると、24年に入り繁殖雌豚頭数の減少により子豚供給頭数も減少している中で、需要が落ち着く2月の春節後も豚肉価格が上昇基調で推移していることから、今後の上昇を見込んで生産者が積極的な子豚の導入を行っていることが、子豚価格上昇の要因とされている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

24年1～7月の豚肉輸入量は前年同期比43.9%減

2024年1～7月の豚肉輸入量は59万1595トン（前年同期比43.9%減）となり、最大の輸入先となるスペインをはじめ、主要輸入先のすべてで前年同期を大幅に下回った（表）。現地報道によると、中国国内で経済不安が広がる中、外食や食肉消費の控えなど国内需要の低迷に加え、23年の国内産豚肉価格低迷時に保管した冷凍豚肉在庫を十分に抱えていることなどが、輸入量の減少につながっているとされている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	93.3	109.7	46.9	37.8	16.1	▲39.4%
ブラジル	48.0	54.6	41.7	40.2	15.5	▲39.2%
オランダ	26.5	27.7	12.3	12.0	4.2	▲52.6%
カナダ	41.0	23.6	11.4	13.2	4.1	▲56.0%
チリ	16.5	13.8	7.2	8.4	3.7	▲28.4%
米国	69.6	39.8	12.6	12.3	3.5	▲60.2%
その他	135.3	88.1	42.3	30.1	12.1	▲43.2%
合計	430.2	357.3	174.4	154.1	59.2	▲43.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

（調査情報部 田中 美宇）

鶏肉

米 国

24年上半期の鶏肉輸出量、前年同期比9.0%減

24年1～7月の鶏肉生産量、前年同期比1.3%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年7月の鶏肉生産量は処理羽数および生体重量の増加により、184万6000トン（前年同月比9.5%増）とかなりの程度増加した。この結果、24年1～7月

の鶏肉生産量は1231万7000トン（前年同期比1.3%増）とわずかに増加した（表1）。

24年の鶏肉生産量についてUSDAは、今年上半期（1～6月）の肉用鶏卵の孵化数の増加などから、前月発表から4万3500トン引き上げ、2126万3000トン（前年比1.1%増）と見込んでいる。

表1 鶏肉生産量の推移

	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～7月)	
				生産量	前年比 (増減率)
生産量（千トン）	1,686	1,846	9.5%	12,317	1.3%
処理羽数（百万羽）	760	825	8.5%	5,508	0.9%
生体重量（キログラム/羽）	2.93	2.95	0.6%	2.96	0.2%

資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

24年7月の卸売価格、前年同月比10.3%高

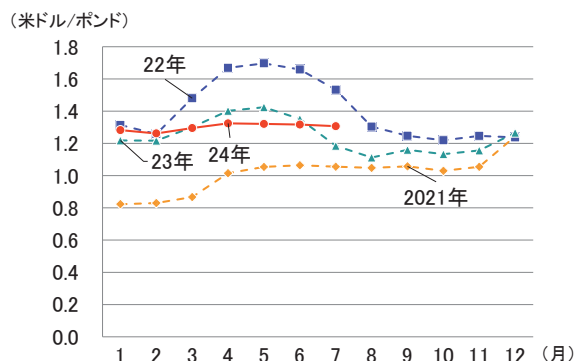
USDA/ERSによると、2024年7月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.31米ドル（1キログラム当たり421円：1米ドル＝145.80円^{（注）}、前年同月比10.3%高）とかなりの程度上昇した。（図1）。

今後の卸売価格についてUSDA/ERSは、引き続き堅調な需要が見込まれるとし、第3四半期（7～9月）平均で同1.27米ドル（同408円、前年同期比10.1%高）、第4四半期（10～12月）平均で同1.28米ドル（同411円、

同8.0%高）と前年同期を上回る水準で推移するとしている。

堅調な需要を反映して、7月末の鶏肉冷凍

図1 鶏肉の卸売価格の推移

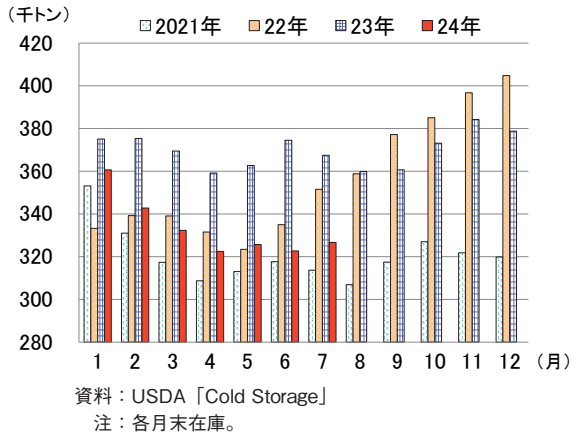


資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

在庫量は32万6657トン（同11.1%減）とかなり大きく減少した（図2）。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

図2 鶏肉冷凍在庫量の推移



24年上半期の鶏肉輸出量、前年同期比9.0%減

USDA/ERSによると、2024年の6月の鶏肉輸出量は25万366トン（前年同月比

5.7%減）とやや減少し、同年上半期（1～6月）累計では、151万7655トン（前年同期比9.0%減）とかなりの程度減少した（表2）。

24年上半期（1～6月）の輸出量を輸出先別に見ると、需要減やドル高による価格競争力の低下などを背景に主要輸出先の多くで前年同期を下回った。

最大の輸出先であるメキシコ向けは35万8652トン（同0.2%増）と前年並みであった。一方、キューバ向けは12万6554トン（同8.1%減）とかなりの程度減少し、台湾向けは台湾内の鶏肉生産の回復により10万189トン（同38.5%減）と大幅に減少した。また、カナダ向けは7万1829トンと前年並み、フィリピン向けは7万971トン（同0.9%減）とわずかに減少した。

24年の鶏肉輸出量についてUSDAは、前年比6.7%減の307万4000トンと予測している。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	シェア	24年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	62,825	53,639	▲14.6%	21.4%	358,652	0.2%
キューバ	27,341	20,640	▲24.5%	8.2%	126,554	▲8.1%
台湾	26,558	14,138	▲46.8%	5.6%	100,189	▲38.5%
カナダ	14,411	15,348	6.5%	6.1%	71,829	▲0.0%
フィリピン	14,832	12,968	▲12.6%	5.2%	70,971	▲0.9%
グアテマラ	9,447	10,454	10.7%	4.2%	68,770	2.9%
アラブ首長国連邦	2,948	7,459	153.0%	3.0%	51,887	59.3%
アンゴラ	6,500	9,525	46.5%	3.8%	50,395	1.6%
ベトナム	2,613	6,801	160.3%	2.7%	46,596	15.4%
ジョージア	8,683	2,340	▲73.0%	0.9%	32,616	▲10.2%
その他	89,430	97,053	8.5%	38.8%	539,195	▲15.9%
合計	265,586	250,366	▲5.7%	100.0%	1,517,655	▲9.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

ブラジル

24年1～7月鶏肉輸出量は、中国向けが大幅減も前年同期並み

24年の鶏肉生産量は前年をわずかに上回る見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB、2024年7月25日公表）によると、24年のブラジルの鶏肉生産量は1517万6000トン（前年比1.7%増）と前年をわずかに上回り、2年連続の増加が見込まれている（図1）。鶏肉生産量が1500万トンを超えるのは21年以來3年ぶりで、22～23年と比較して

鶏肉生産者の経営環境が改善しているとみられる。生産量全体の3分の1を占める輸向け、同3分の2を占める国内市場向けとも前年をわずかに上回ると見込まれている。

24年1～7月鶏肉輸出量、中東向けを中心に中国向けの落ち込みを補完

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年1～7月の鶏肉輸出量は282万3628トン（前年同期比0.2%増）と前年同期並みとなった（表）。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは33万7125トン（同23.6%減）と高水準となった前年同期の反動で大幅に下回った。ただし、同国向け輸出については、中国政府が24年2月、ブラジル産鶏肉に課していた反ダンピング関税を解除したことに加え、同年3月には新たにブラジルの八つの鶏肉処理施設に対する輸出許可をしたことなどが今後の増加につながると思われる。一方、アラブ首長国

図1 鶏肉生産量

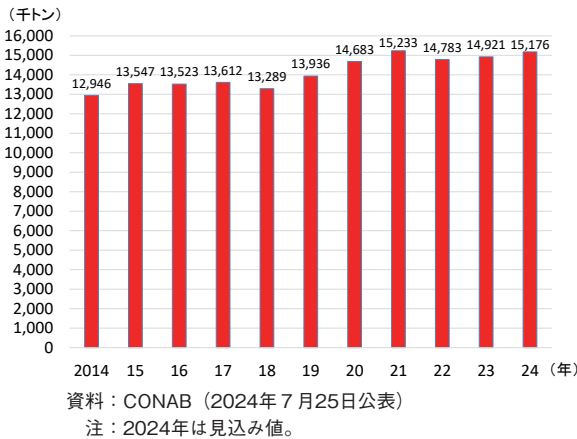


表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

	2023年（1～7月）			24年（1～7月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	441,307	1,072,654	2,431	337,125	745,445	2,211	▲23.6%	▲30.5%	▲9.0%
アラブ首長国連邦	245,202	505,872	2,063	278,390	560,354	2,013	13.5%	10.8%	▲2.4%
日本	254,722	596,307	2,341	258,677	498,688	1,928	1.6%	▲16.4%	▲17.6%
サウジアラビア	209,199	488,988	2,337	232,364	490,713	2,112	11.1%	0.4%	▲9.7%
南アフリカ	215,021	130,890	609	196,188	106,951	545	▲8.8%	▲18.3%	▲10.4%
フィリピン	141,891	128,620	906	140,912	119,827	850	▲0.7%	▲6.8%	▲6.2%
イラク	97,061	192,963	1,988	120,231	262,656	2,185	23.9%	36.1%	9.9%
メキシコ	98,580	203,987	2,069	108,445	263,080	2,426	10.0%	29.0%	17.2%
その他	1,115,496	2,082,315	1,867	1,151,296	1,936,111	1,682	3.2%	▲7.0%	▲9.9%
合計	2,818,479	5,402,597	1,917	2,823,628	4,983,825	1,765	0.2%	▲7.8%	▲7.9%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

連邦：27万8390トン（同13.5%増）、サウジアラビア：23万2364トン（同11.1%増）、イラク：12万231トン（同23.9%増）といった中東向けは、前年同期をかなり大きく上回っている。また、中国、アラブ首長国連邦に次ぐ日本向けは25万8677トン（同1.6%増）と前年同期をわずかに上回った。

24年1～8月の鶏肉卸売価格は比較的安定して推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2024年8月29日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり7.37リアル（190円：1リアル＝25.78円^{（注）}、前年同期比16.2%高）となった（図2）。24年の鶏肉卸売価格は、おおむね同7.0～7.5リアル（180～193円）の範囲で推移しており、23年の価格を上回る水準で推移している。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の日毎の推移



資料：CEPEA
注：名目価格。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」2024年8月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

リオグランデドスル州で18年ぶりにニューカッスル病の発生を確認

ブラジル農牧省（MAPA）は2024年7月17日、南部リオグランデドスル州アンタゴルダ市の商業養鶏農家においてニューカッスル病（NCD）の発生を確認したと公表した。これを受けて同省は7月19日、同州での動物衛生緊急事態宣言（90日間有効）を発令してまん延防止対策を強化し、その後、事態の終息に伴い8月6日、同宣言の終了が決定した。また、同省は7月19日、貿易相手との二国間協定に基づき44カ国への輸出認証を一時的に停止し、鶏肉、鶏肉製品などの輸出を予防的に停止することを公表した。その後、同省は7月26日、国際獣疫事務局に対しNCDの発生が終息したことを通知したとしており、二国間協定に基づき輸出認証の停止措置が解除されていくものとみられる。

ブラジルでのNCDは、06年に北部アマソナス州、中西部マットグロッソ州、リオグランデドスル州の庭先養鶏農家で確認されて以来、18年ぶりの発生となる。

（調査情報部 井田 俊二）

24年の鶏肉生産量は過去最高の見込み

24年上半期の家きん肉生産量、前年同期比6.3%増

中国国家统计局によると、2024年上半期（1～6月）の家きん総出荷羽数は76億羽（前年同期比5.7%増）、同生産量は1182万トン（同6.3%増）と、いずれも前年を上回った。また、同年6月末の家きん飼養羽数は63億2000万羽（同0.1%減）となった。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の

直近見通しによると、24年の中国の鶏肉生産量^{（注1）}は1500万トン（同4.9%増）と過去最高を記録した23年を上回ることが見込まれている。この要因として、中国国内の優良遺伝子を用いた生産能力の強化が挙げられている（表1）。

（注1）同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」2 肉用鶏産業の概要（1）家きん産業における肉用鶏産業の位置付け（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001123.html#title3）をご参照ください。

表1 中国の鶏肉需給

（単位：万トン）

	2021年	22年	23年	24年 （予測）
生産量	1,470	1,430	1,480	1,500
輸入量	79	63	76	55
輸出量	46	53	55	65
国内消費量	1,503	1,440	1,500	1,490

資料：USDA/FAS

注：もみじ（鶏足）は含まない。

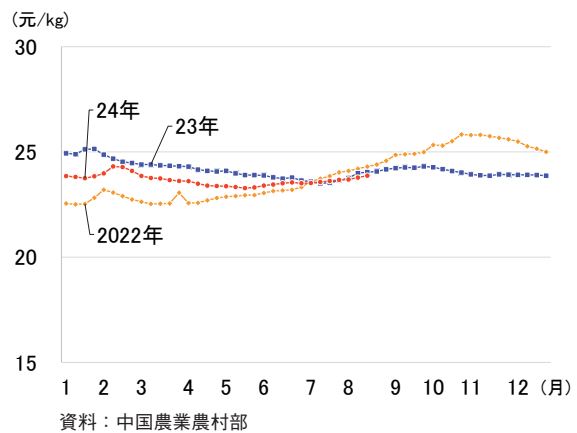
24年8月の鶏肉市場価格、前年同期比0.7%安

中国農業農村部によると、2024年8月第3週の鶏肉市場価格は1キログラム当たり23.9元（495円：1元＝20.70円^{（注2）}、前年同期比0.7%安）と前年同期をわずかに下回った（図）。

24年7月は、ブラジルでの家畜疾病の発生による鶏肉輸出の停止などから同価格は前年並みを維持したが、8月は景気の停滞感などによる需要の減退などからわずかに下回って推移した。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

図 鶏肉市場価格の推移



24年1～7月の冷凍鶏肉輸入量、前年同期比35.6%減

2024年1～7月の冷凍鶏肉輸入量は52万6696トン（前年同期比35.6%減）と

前年同期を大幅に下回った（表2）。輸入量の減少について中国農業農村部は、国内の鶏肉供給量が十分であったことを挙げている。

今後の見通しについてUSDA/FASは、24年は引き続き前年を下回って推移するとしている。一方で、中国では、一定の消費層が国産冷蔵鶏肉を好むものの、景気の低迷から、

より安価な冷凍輸入鶏肉にシフトする動きが出ているとしている。加えて、手羽先やもみじのような特定の部位は依然として引き合いが強く、国内供給が十分でない場合には、鶏肉輸入量を押し上げる要因になるとしている。

表2 輸入先別冷凍鶏肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	68.5	65.1	55.3	67.9	31.9	▲ 24.1%
ロシア	14.4	11.8	12.7	12.7	6.9	▲ 10.0%
タイ	11.7	10.4	8.5	11.6	6.1	▲ 7.5%
米国	40.9	44.0	34.3	24.3	4.2	▲ 73.4%
その他	15.8	14.3	18.4	11.7	3.6	▲ 63.0%
合計	151.4	145.6	129.2	128.3	52.7	▲ 35.6%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

24年1～7月の鶏肉調製品輸出量、前年同期比17.9%増

2024年1～7月の鶏肉調製品の輸出量は19万8447トン（前年同期比17.9%増）と前年同期を大幅に上回った（表3）。主要な輸出先を見ると、引き続き日本向けが首位と

なるが、最近では香港や英国、オランダなどへの輸出量も増加している。中国農業農村部が4月に公表した中国農業展望報告によると、同年の家きん肉の輸出量は67万トン（同1.5%増）と見込まれており、鶏肉調製品の輸出についても同様の傾向とされている。

表3 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	16.1	18.0	19.3	17.2	10.7	10.1%
香港	3.0	3.7	3.8	3.8	2.4	12.3%
英国	0.6	0.8	1.8	2.5	2.0	51.7%
オランダ	1.0	1.4	1.8	2.0	1.6	36.5%
その他	2.0	3.0	3.7	4.4	3.2	25.6%
合計	22.7	27.0	30.5	30.0	19.8	17.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

(調査情報部 田中 美宇)

牛乳・乳製品

EU

24年上半期の生乳出荷量、前年同期をわずかに上回る

24年6月の生乳出荷量、前年同月比1.0%増

欧州委員会によると、2024年6月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1263万6000トン（前年同月比1.0%増）と前年同月をわずかに

上回った（表）。主要生産国別に見ると、フランス（同2.9%増）、ポーランド（同3.8%増）およびイタリア（同2.9%増）は前年同月を上回った一方で、オランダ（同2.0%減）は4カ月連続、アイルランド（同1.3%減）は16カ月連続でいずれも前年同月を下回った。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

	2023年 6月	24年 6月	24年 (1～6月)		
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)	
ドイツ	2,763	2,762	▲ 0.0%	16,628	0.2%
フランス	1,943	1,998	2.9%	12,450	1.4%
ポーランド	1,112	1,154	3.8%	6,945	4.7%
オランダ	1,167	1,143	▲ 2.0%	7,044	▲ 1.3%
アイルランド	1,077	1,063	▲ 1.3%	4,482	▲ 5.3%
イタリア	1,022	1,051	2.9%	6,818	5.7%
スペイン	615	627	1.9%	3,837	2.2%
デンマーク	484	487	0.6%	2,882	0.2%
ベルギー	394	395	0.1%	2,417	1.1%
その他	1,934	1,956	1.1%	11,883	2.4%
合計	12,510	12,636	1.0%	75,385	1.3%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

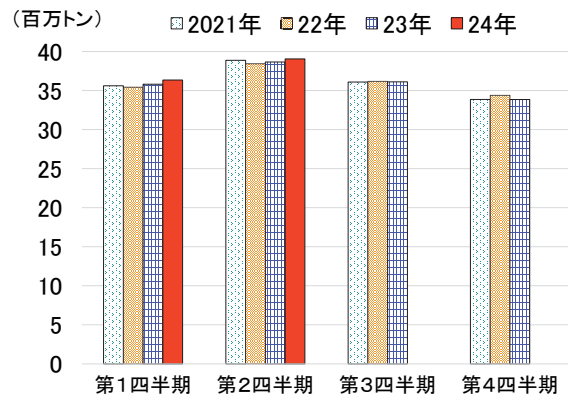
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

また、24年第2四半期（4～6月）の生乳出荷量は、第1四半期（前年同期比1.5%増）に続き、同1.0%増の3904万3000トンとわずかに増加した（図1）。この要因として、第1四半期から継続している（1）比較的高い水準で安定している乳価（2）前年に比べて良好な気象条件—が挙げられる。

一方で、アイルランドでは天候不順に加え、オランダとともに硝酸塩に関する規制の影響から、上半期（1～6月）の生乳出荷量はいずれも前年同期比減となった。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

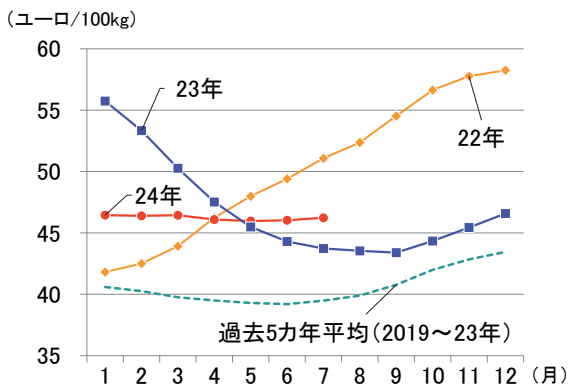
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年7月の生乳取引価格、3カ月連続で前年同月を上回る

欧州委員会によると、2024年7月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり46.23ユーロ（1キログラム当たり73.48円：1ユーロ＝158.94円^{（注）}、前年同月比5.7%高）と3カ月連続で前年同月を上回った^{（図2）}。生乳取引価格は昨年12月以降、同46ユーロ前後と安定して推移している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注1：直近月は推定値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年上半期の主要乳製品生産量、チーズなどで前年同期比増

欧州委員会によると、2024年上半期の主要乳製品の生産量は、チーズ（前年同期比3.4%増）、濃縮乳（同5.0%増）およびクリーム（同4.0%増）が増加した一方、脱脂粉乳および全粉乳は前年同期並み、バター（同2.0%減）は前年同期を下回った^{（図3）}。EU域内および国際市場におけるチーズおよびクリームの堅調な需要から両乳製品の生産量が増えたことにより、バター向け生乳供給量が減ったことがその要因とみられる。

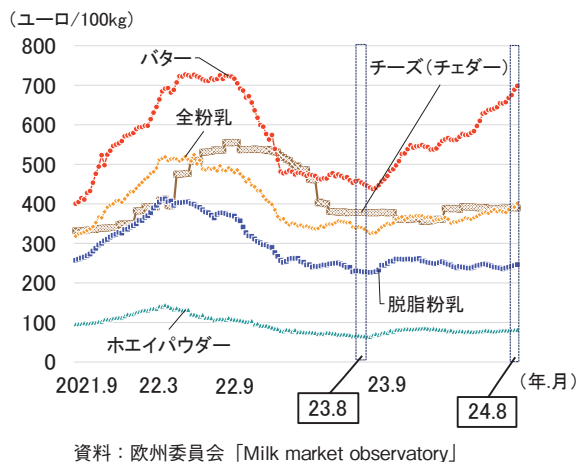
生乳出荷量の減少が続くアイルランドの同上半期のEU域外向けバター輸出量は4万2109トン（同6.9%減）とEU全体の34.5%を占め、同国のバター輸出量の減少がEU全体のバターの輸出量の減少につながっている。

8月25日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、主要乳製品のいずれも前年同期を上回り、中でもバターは、100キログラム当たり698ユーロ（1キログラム当たり1109円、同56.7%高）と前年同期を大幅に上回り、22年10月以来の1トン当たり7000ユーロ（111万2580円）台に迫っている^{（図4）}。

図3 主要乳製品生産量（2024年1～6月）の前年増減率



図4 乳製品価格の推移



（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

23/24年度の生乳生産量は増加、主要乳製品輸出量も全粉乳を除き増加

23/24年度の生乳生産量、前年度比3.1%増

デイリー・オーストラリア（DA）が2024年8月に公表した「Milk Production Reports」によると、24年6月の生乳生産量は、前年同月比3.4%増の59万6308キロリットル（61万4197トン相当）となり、11カ月連続で前年同月を上回った（図1）。

この結果、23/24年度（7月～翌6月）の生乳生産量は、前年度比3.1%増の837万5938キロリットル（862万7217トン相当）となり、DAが5月に公表していた見通しである前年度比2～3%増（829～837万キロリットル、854～862万トン相当）を0.1ポイント上回る水準となった（図2）。

また、同じく5月に公表した見通しの中で、24/25年度の生乳生産量は、生乳価格の引き下げ^{（注）}や労働力不足、継続的な農家戸数の減少などを要因に、830万キロリットル（855万トン相当、23/24年度比1%減）前後にとどまると見込んでいる。

図1 月別生乳生産量の推移

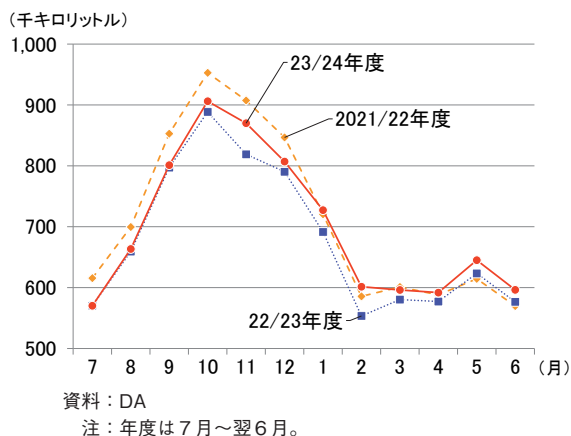
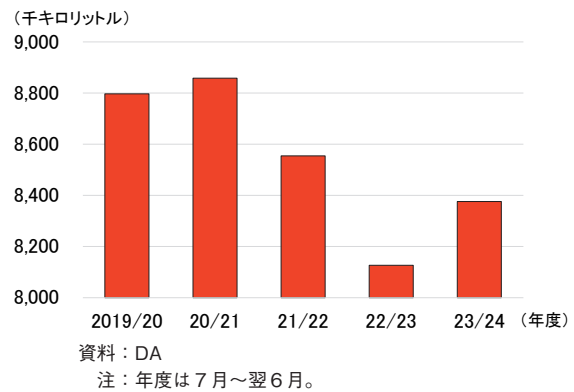


図2 年度別生乳生産量の推移



他方で、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）が7月に公表した「Dairy：World Markets and Trade」では、24年（1～12月）の豪州の生乳生産量を875万トン（849万キロリットル相当、前年比3.5%増）と見込んでいる。この理由としてUSDA/FASは、（1）良好な気象条件により牧草地の安定した利用が見込めること（2）アジアの堅調な乳製品需要を背景に、豪州の生乳価格は高水準で酪農家の生乳生産意欲が維持されることなどを挙げている。

（注）海外情報「生乳需要の低迷を受け2024/25年度当初乳価を引き下げ提示（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003835.html）をご参照ください。

23/24年度の主要乳製品の輸出量、全粉乳を除き大幅増加

DAが発表した2024年6月の主要乳製品4品目の輸出量は、全品目で前年同月を大幅に上回った（表、図3）。この結果、23/24年度の累計輸出量は、全粉乳を除く3品目で大幅に増加した。

脱脂粉乳は、中国向けが大きく減少したものの、インドネシアやベトナムなど東南アジア

向けが大きく増加したことを受け、前年度比で大幅に増加した。全粉乳は、タイやベトナム向けは増加したものの、前年度の輸出先第1位の中国と第2位のアラブ首長国連邦向けが大きく減少したことを受け、大幅に減少した。バターおよびバターオイルは、タイや

フィリピン向けが低調であったものの、中国や他のアジア向けおよび米国向けが好調であったことを受け、大幅に増加した。チーズは、輸出先第1位の日本をはじめとしたアジア向けが堅調に推移したことを受け、大幅に増加した。

表 乳製品輸出量の推移

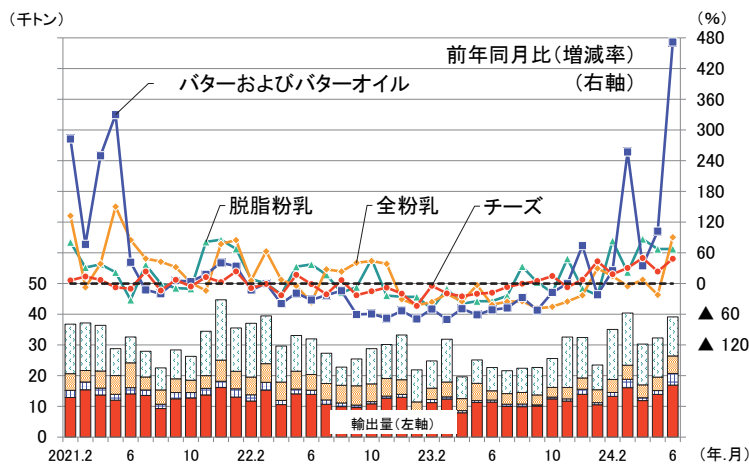
(単位：トン)

品目	2023年 6月	24年 6月	前年同月比 (増減率)	23/24年度 (7月～翌6月)	
				23/24年度 (7月～翌6月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	7,585	12,712	67.6 %	143,306	22.4 %
全粉乳	2,998	5,708	90.4 %	48,392	▲ 16.7 %
バターおよびバターオイル	664	3,799	472.0 %	15,509	50.4 %
チーズ	11,406	16,926	48.4 %	150,673	17.6 %

資料：DA

注：製品重量ベース。

図3 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

N Z

GDT平均価格が大きく上昇、24/25年度の生産者支払乳価は引き上げへ

24年7月の生乳生産量、前年をかなりの程度上回り過去最大を記録

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年7月の生乳生産量は31万

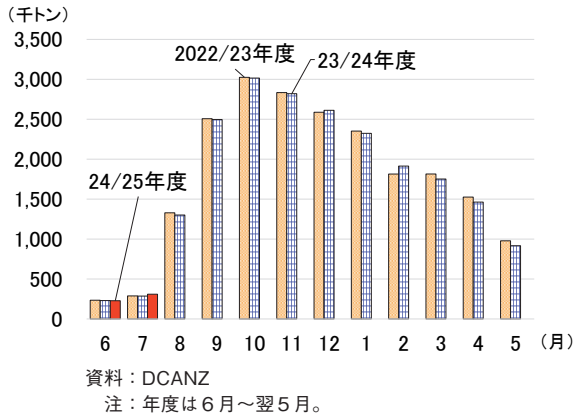
トン（前年同月比8.4%増）とかなりの程度増加し、7月としては過去最大となった（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、例年この時期は湿潤な気候により土壌水分が過剰になるところ、

北島の降雨量が平年より少なく、土壌環境が改善に向かったことで、牧草の生育に寄与したことに加え、最大の酪農生産地帯であるワイカト地方などで、一部の乳牛の分娩期への

移行が円滑に進み、搾乳頭数が増えたためとしている。

今後の生乳生産の見通しとして、生乳生産の最盛期となる9～11月に向けて大きな不安材料はないとしており、牧草の生育状況などから順調な生産が続くと予測している。

図1 生乳生産量の推移



24年7月の乳製品輸出量、脱脂粉乳が大幅増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年7月の乳製品輸出量は、バターおよびバターオイルを除く主要3品目で前年同月を上回った（表、図2）。特に、脱脂粉乳の輸出量は前年同月比で約6割の増加

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2023年 7月	24年 7月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	22,620	35,562	57.2%
全粉乳	89,236	89,606	0.4%
バターおよびバターオイル	41,305	35,854	▲ 13.2%
チーズ	32,720	40,437	23.6%

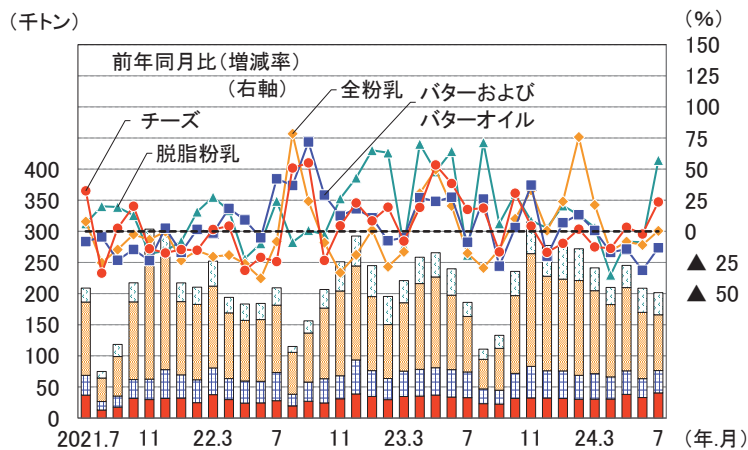
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



となった。最大の輸出先である中国のみならず、インドネシアやフィリピンといった東南アジア向けが好調となったことに起因している。一方、バターおよびバターオイルは、主要輸出先である豪州やメキシコ向けがそれぞれ減少したことから、全体でもかなり大きく下回った。

GDT平均価格の上昇を受け、24/25年度の生産者支払乳価を引き上げ

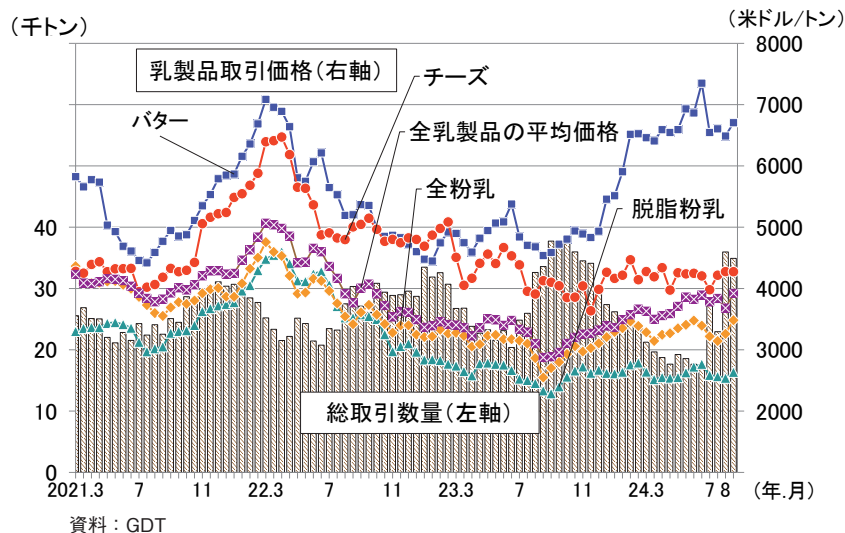
2024年8月20日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、チーズを除く3品目が前回開催時(同年8月6日)を上回り、特に全粉乳は、北アジアからの需要が回復傾向にあり、1トン当たり3482米ドル(50万7676円：1米ドル=145.80円^(注2)、前回比6.8%高)と21年3月以来の上昇幅を記録した(図3)。

この結果、全乳製品の平均取引価格は同3920米ドル(57万1536円、前回比6.5%高)と、同じく21年3月以来の上昇幅となった。

このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は24年8月23日、24/25年度(6月～翌5月)の生産者支払乳価を生乳の固形分^(注3) 1キログラム当たり平均0.5NZドル(46円：1NZドル=92.79円^(注2))引き上げ、同8.5NZドル(789円)にすると発表した。引き上げの理由について同社のハレル最高経営責任者は、最近のGDT価格の上昇を踏まえたものと説明している。

(注1) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
 (注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。
 (注3) 乳脂肪分および乳タンパク質。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 渡部 卓人)

飼料穀物

世界

米国などの増産見込みを受けて、期末在庫は高水準の見通し

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年8月12日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1982万トン（前年度比0.3%減）と前月から497万トン下方修正された。このうち、最大のトウモロコシ生産国である米国は単収の引き上げにより前月から118万トン上方修正されて3億8474万トン（同1.3%減）となり、これに続く中国、ブラジルはいずれも据え置かれた。一方、EUとウクライナなどでは著しい高温や干ばつにより単収がそれぞれ下方修正されたことで、世界全体では米国の増産分を上回る減産とされた。

輸入量は、1億8585万トン（同1.3%減）と前月から66万トン下方修正された。EUや中国などはいずれも前月から据え置かれたが、アジア諸国やエジプトなどでの下方修正

がインドの上方修正分を上回った。近年、インドではエタノール原料や飼料用としてトウモロコシ需要が急増しており、輸入が増加しているが、アジア諸国やエジプトの需要減の方が大きかった。

消費量は、12億1817万トン（同0.0%増）と前月から411万トン下方修正された。このうち、中国やブラジルなどは前月から据え置かれたが、米国やEUで下方修正された。

輸出量は、1億9147万トン（同4.5%減）と前月から34万トン下方修正された。このうち、米国は生産増を背景に前月から上方修正され、ブラジルとアルゼンチンはいずれも据え置いた。一方、ウクライナやEUなどが下方修正されたことで、米国の増加分を上回る減少とされた。

この結果、期末在庫は3億1017万トン（同0.5%増）と前月から147万トン下方修正されたものの、引き続き高水準が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2024年8月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(7月予測)	(8月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	34.98	34.55	47.67	47.42	37.3%
生産量	346.74	389.69	383.56	384.74	▲ 1.3%
輸入量	0.98	0.76	0.64	0.64	▲ 15.8%
消費量	305.93	320.44	322.09	321.71	0.4%
輸出量	42.22	57.15	56.52	58.42	2.2%
期末在庫	34.55	47.42	53.26	52.67	11.1%
ブラジル					
期首在庫	3.97	10.04	3.84	3.84	▲ 61.8%
生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
消費量	78.00	79.50	80.50	80.50	1.3%
輸出量	54.26	50.00	49.00	49.00	▲ 2.0%
期末在庫	10.04	3.84	2.84	2.84	▲ 26.0%
アルゼンチン					
期首在庫	4.75	1.32	1.54	1.54	16.7%
生産量	36.00	50.00	51.00	51.00	2.0%
輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲ 50.0%
消費量	14.20	14.80	14.80	14.80	0.0%
輸出量	25.24	35.00	36.00	36.00	2.9%
期末在庫	1.32	1.54	1.74	1.74	13.0%
ウクライナ					
期首在庫	7.80	2.80	1.51	1.56	▲ 44.3%
生産量	27.00	32.50	27.70	27.20	▲ 16.3%
輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	4.90	4.25	4.05	4.05	▲ 4.7%
輸出量	27.12	29.50	24.50	24.00	▲ 18.6%
期末在庫	2.80	1.56	0.68	0.73	▲ 53.2%
EU					
期首在庫	11.51	8.03	7.59	7.48	▲ 6.8%
生産量	52.33	61.45	64.00	60.50	▲ 1.5%
輸入量	23.19	19.50	18.00	18.00	▲ 7.7%
消費量	74.80	77.10	78.10	75.60	▲ 1.9%
輸出量	4.20	4.40	4.00	3.50	▲ 20.5%
期末在庫	8.03	7.48	7.49	6.88	▲ 8.0%
中国					
期首在庫	209.14	206.04	210.86	210.86	2.3%
生産量	277.20	288.84	292.00	292.00	1.1%
輸入量	18.71	23.00	23.00	23.00	0.0%
消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	206.04	210.86	212.84	212.84	0.9%
世界計					
期首在庫	313.74	302.82	309.13	308.52	1.9%
生産量	1159.74	1223.81	1224.79	1219.82	▲ 0.3%
輸入量	173.39	188.29	186.51	185.85	▲ 1.3%
消費量	1170.66	1218.11	1222.28	1218.17	0.0%
輸出量	180.24	200.59	191.81	191.47	▲ 4.5%
期末在庫	302.82	308.52	311.64	310.17	0.5%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 峯岸 啓之)

米国の生産増などから、大豆の期末在庫は大幅な増加見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年8月12日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

表 主要国の大豆需給見通し（2024年8月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		前年度比 (増減率)
			(7月予測)	(8月予測)	
米国					
期首在庫	7.47	7.19	9.40	9.39	30.6%
生産量	116.22	113.34	120.70	124.90	10.2%
輸入量	0.67	0.54	0.41	0.41	▲24.1%
消費量	60.20	62.32	66.00	66.00	5.9%
輸出量	53.87	46.27	49.67	50.35	8.8%
期末在庫	7.19	9.39	11.85	15.25	62.4%
ブラジル					
期首在庫	27.38	36.82	29.72	27.82	▲24.4%
生産量	162.00	153.00	169.00	169.00	10.5%
輸入量	0.15	0.85	0.15	0.15	▲82.4%
消費量	53.41	54.00	54.00	54.00	0.0%
輸出量	95.50	105.00	105.00	105.00	0.0%
期末在庫	36.82	27.82	35.77	33.87	21.7%
アルゼンチン					
期首在庫	23.69	17.00	24.85	24.35	43.2%
生産量	25.00	49.00	51.00	51.00	4.1%
輸入量	9.06	6.70	5.50	5.50	▲17.9%
消費量	30.32	35.50	40.00	40.00	12.7%
輸出量	4.19	5.60	5.50	4.50	▲19.6%
期末在庫	17.00	24.35	28.25	28.75	18.1%
中国					
期首在庫	25.15	32.34	39.38	42.88	32.6%
生産量	20.28	20.84	20.70	20.70	▲0.7%
輸入量	104.50	111.50	109.00	109.00	▲2.2%
消費量	96.00	99.00	103.00	103.00	4.0%
輸出量	0.09	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	32.34	42.88	42.18	45.68	6.5%
世界計					
期首在庫	92.57	100.66	111.25	112.36	11.6%
生産量	378.50	395.12	421.85	428.73	8.5%
輸入量	167.82	176.93	176.40	177.28	0.2%
消費量	315.41	329.65	345.68	346.58	5.1%
輸出量	171.76	177.30	180.20	181.22	2.2%
期末在庫	100.66	112.36	127.76	134.30	19.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2873万トン（前年度比8.5%増）と前月から688万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億6900万トン（同10.5%増）、これに次ぐ米国は1億2490万トン（同10.2%増）、アルゼンチンは5100万トン（同4.1%増）と、米国を除きいずれも前月から据え置かれた。米国は、単収が前月の1エーカー当たり52.0ブッシェル（1ヘクタール当たり3.26トン^{（注1）}）から同53.2ブッシェル（同3.34トン）へと上方修正されたのに加え、作付面積および収穫面積もそれぞれ100万エーカー（40万ヘクタール^{（注1）}）上方修正されたことで増加した。また、中国は2070万トン（同0.7%減）と据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7728万トン（同0.2%増）と前月から88万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（同2.2%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億4658万トン（同5.1%増）と前月から90万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8122万トン（同2.2%増）と前月から102万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル

は1億500万トン（前年度並み）と据え置かれたが、これに次ぐ米国は生産量の増加を反映して5035万トン（同8.8%増）と前月から68万トン上方修正された。

この結果、期末在庫は1億3430万トン（同19.5%増）と前月から654万トン上方修正された。これは、米国などの生産増に加え、23/24年度の中国の輸入量が350万トン上方修正されたことで、同年度の世界全体の期末在庫も111万トン上方修正されたことが反映されている。

今回の予測では、米国などの大豆生産が増加する中で、世界全体の輸出货量や消費量も増加とされたが、市場関係者の当初予想を上回る期末在庫であることから、USDAは米国の生産者販売価格を引き下げ、1ブッシェル当たり10.80米ドル（1575円、1キログラム当たり65円：1米ドル＝145.80円^{（注2）}、前年度比13.6%安）と見込んでいる。

また、今回の内容に関して輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量は9460万トンと前月から据え置かれており、期末在庫が増加する中で、引き続きこの乖離が注目される。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国は単収増加で生産量は上方修正、輸出量も2年ぶりの高水準

USDA/WAOBは2024年8月12日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、作付面積および収穫面積が下方修正される中で、単収の上方修正から151億4700万ブッシェル（3億8475万トン^{（注1）}、前年度比1.3%減）と前月から上方修正され、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

米国内消費量は、126億6500万ブッシェル（3億2170万トン、同0.4%増）と前月からわずかに下方修正された。このうち、飼料等向けやエタノール向けは前月から据え置かれたものの、でん粉用途向けなどを含む食品・種子・その他工業向けが下方修正された。

輸出量は、国際相場が比較的低い水準に

あることで米国产トウモロコシの需要が高まるとの期待から、23億ブッシェル（5842万トン、同2.2%増）と前月から上方修正され、22年9月に予測された22/23年度の輸出量以来の高水準とされた。

この結果、期末在庫は20億7300万ブッシェル（5266万トン、同11.0%増）と前月から下方修正されたものの、高水準となった前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、下方修正されたものの13.9%（同1.3ポイント増）と前年度からわずかな増加が見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年8月12日米国農務省公表）

	－単位－	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			前年度比 (増減率)
				(7月予測)	(8月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	91.5	90.7	36.71 (百万ヘクタール)	▲4.1%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	83.4	82.7	33.47 (百万ヘクタール)	▲4.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	181.0	183.1	11.49 (トン/ヘクタール)	3.3%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,877	1,867	47.42 (百万トン)	37.3%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,342	15,100	15,147	384.75 (百万トン)	▲1.3%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	30	25	25	0.64 (百万トン)	▲16.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,732	17,002	17,038	432.78 (百万トン)	1.8%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,615	12,680	12,665	321.70 (百万トン)	0.4%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,485	5,775	5,825	5,825	147.96 (百万トン)	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,840	6,855	6,840	173.74 (百万トン)	0.0%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,450	5,450	5,450	138.44 (百万トン)	0.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,250	2,225	2,300	58.42 (百万トン)	2.2%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,865	14,905	14,965	380.13 (百万トン)	0.7%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,867	2,097	2,073	52.66 (百万トン)	11.0%
期末在庫率	(%)	9.9	12.6	14.1	13.9		1.3ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.65	4.30	4.20	24.1 (円/kg)	▲9.7%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25,401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

4.20米ドル（612円。1キログラム当たり
24.1円：1米ドル＝145.80円^{（注2）}、同9.7%
安）とかなりの程度下落が見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約
0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・
月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

（調査情報部 峯岸 啓之）

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

24年7月の国産トウモロコシ価格、 需給が安定する中でわずかに下落

中国農業農村部は8月21日、「農産物需給
動向分析月報（2024年7月）」を公表した。
この中で、24年7月の国産トウモロコシ価
格は前月からわずかに下落した（図1）。同
月のトウモロコシ需給を見ると、市場への供
給は縮小期にあるが、輸入在庫が前年を上回
る水準とされることで、供給面での不安材料
は見当たらないとされている。需要面では、
加工業者などは一定の在庫を確保し、必要量
のみを都度購入していることから、比較的落
ち着いた状況とされている。トウモロコシ
輸入量が減少基調にあることや、8月以降の
大雨、台風の発生による収穫や取引への影響

も懸念されるが、当面の国産トウモロコシ価
格は安定した推移が見込まれている。

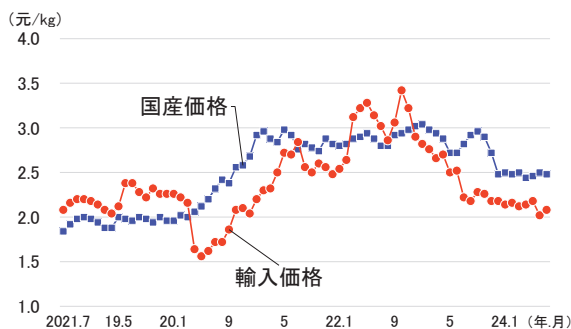
輸入トウモロコシ価格を見ると、主要な養
豚生産地の中国南部向け飼料原料集積地とな
る広東省黄埔港到着（関税割当数量内：1%
の関税+25%の追加関税）は、24年7月が
1キログラム当たり2.04元（42円：1元＝
20.70円^{（注）}、前月比6.3%安）とかなりの程
度下落した。また、同月の国産トウモロコシ
価格（東北部産の同港到着価格）が同2.48
元（51円）となったことで、輸入と国産と
の価格差は前月の同0.48元（10円）から同
0.44元（9円）に縮小した。

24年7月の国産大豆価格、需要停滞 も供給減から前月並みを維持

2024年7月の国産大豆価格は前月並みと
なった（図2）。同月の大豆需給を見ると、
産地や市中在庫の減少から、供給は引き続き
備蓄大豆の取り崩しが中心とされている。需
要面では、各地の気温上昇から引き続き食用
など加工需要は低下しているとされる。この
ため、当面の国産大豆価格は安定した推移が
見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である
黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格
は、24年7月が1キログラム当たり4.68元
（96円、前年同月比8.8%安）と前年同月を

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

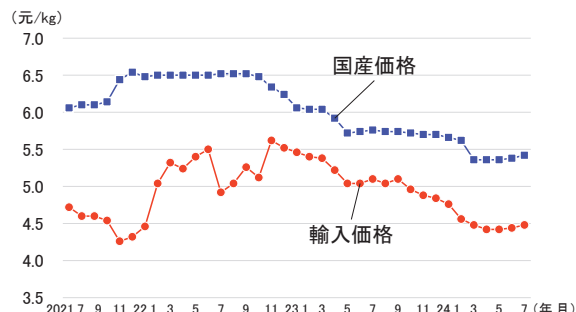
注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

かなりの程度下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.42元（112円、同5.9%安）と前年同月をやや下回った。同月の輸入大豆価格（山東省青島港引き渡し価格、課税後）が同4.48元（93円）となったことで、輸入と国産との価格差は前月と同じく同0.94元（19円）となった。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べてわずかに低い水準にある。24年（1～6月）の輸入量は4848万トン（前年同期比2.2%減）、輸入額は同19.8%減の251億9500万米ドル（3兆6734億円：1米ドル＝145.80円^{（注）}）と報告されている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年8月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引き渡し価格（課税後）。

（調査情報部 横田 徹）